



家族計画指導の実際 第2版

少子社会における家族形成への支援

岡本喜代子 日本助産師会副会長

本 著は10年前の初版から、家族計画指導を人口問題、性意識の変遷、いのちの伝承としての家族計画など、広い概念でとらえ、当時としても斬新な内容であった。

このたび、10年を経過し、最近のリプロヘルスの動向をふまえた第2版が発行された。10年間の時代の変遷とともに、家族計画指導に求められている内容も大きく変化してきている。今回の改訂により、本著は更にその時代的要請に応えた画期的な内容となっている。

特に、従前の家族計画指導は成熟期の男女に対する指導内容が中心であったが、このたびは時代が求めている、思春期の若者たち、子どもたちに向けた指導に対応する内容となっている。

10年の間に、若者や大人を取り巻く社会環境は大きく変化してきた。若者や子どもに限ってみると、性交の低年齢化、若年妊娠・出産、人工妊娠中絶、若者の性感染症の増加、ニートの出現や犯罪の低年齢化・凶悪化が目立ってきている。

また、成人においてもバブル崩壊後の不安定な経済を背景に、晩婚化、離婚家庭の増加、DV、子ども虐待の増加など、大きな問題を抱えている。大人も子どもも何か満たされない苛立ちのなかでの生活を余儀なくされている現代である。こういう時代だからこそ、本著で、人と人が出会い、愛することの意味をどの世代の人にも知って欲しいと願う。

時代的要請に応える 第2版の発行



木村好秀 齋藤益子 著
定価 3,150 円 (本体 3,000 円 + 税 5%)
B5 判 / 医学書院 / 2007 年

今回の改訂では、思春期教育をはじめ、発達段階に応じた指導内容が盛り込まれている。資料編には、小学・中学・高校、更には結婚前、産後、更年期と各年代別に対象者への指導が展開されている。また、主題・ねらい・評価・配慮事項をふまえ、学習内容、指導上の留意点、使用教材など具体的な指導方法が明示されている。

避妊に関しては、この10年で、わが国においては、経口避妊薬(低用量ピル)、銅付加IUD、女性用コンドームの認可などの大きな変化があった。それらに関して、また、現実的に緊急に必要性が発生する緊急避妊用ピ

ルについても本書では取り上げている。

助産師学生・助産師をはじめ、学校関係者、助産師以外の看護職、産婦人科・泌尿器科医師などリプロヘルスに関心のある方々に、本書をご利用いただきたいと願っている。これから指導を開始する方には、実践に際しての手引書として最適であるし、既に実践している方には、自己評価とレベルアップのための指標として活用していただけるだろう。

著者らは、より広い性の概念に基づく、性教育をも包含した家族計画指導を普及し、幸せな家族が増え、自他を大切にする生き方のできる若者や大人が増えることを心から願っている。その結果、少子化が緩和されることを願っている。そんな熱い想いが伝わってくる。